

# II.

## 説明責任の原則—市場との真摯な対話を果たすIR

株主・投資家と真摯に対話を深め、適時に説明責任を果たすと共に、市場からの意見を経営に反映させ、経営の透明性を高める

### 【基本姿勢】

- ① IR活動を通じて株主・投資家の声を聞き、対話の内容を経営に反映させる
- ② IRの視点で株主総会を運営し、株主・投資家との長期的な関係を構築する
- ③ IRとコーポレート・ガバナンスとの関係を深め、経営の透明性を高める

### 【実行の手引き】

- ① IR活動を通じて株主・投資家の声を聞き、対話の内容を経営に反映させる
  - IRを通じて得られた株主・投資家の意見を、経営会議や取締役会で報告する
  - 経営トップを含む役員・幹部社員がIR活動に参加し、株主・投資家の質問に答える
  - 株主・投資家の意見や市場関係者の声を経営戦略などに反映し、企業価値の向上につなげる
  - 重要な経営判断（投資案件など）の際には、IRで得られた株主・投資家の声を参考にする
- ② IRの視点で株主総会を運営し、長期的な関係を構築する
  - 株主総会の議案は、株主の意見を聞いてわかりやすく詳細に説明する
  - 株主総会の開催日や招集通知発送日に配慮する
  - 株主総会の議決権行使がしやすいように配慮する
  - 株主総会では、議長がていねいに質問に答える
  - 株主総会の議案の賛否について、可能な限り株主・投資家に開示する
- ③ IRとコーポレート・ガバナンスとの関係を深め、経営の透明性を高める
  - 中・長期的な視点でIRとコーポレート・ガバナンスの関係を深め、経営の透明性について継続的に株主・投資家に説明する
  - コーポレート・ガバナンスのポリシーを「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」やウェブサイトで明示し、実行状況や改善内容を開示する
  - 投資家の関心が高い事項を定期的に調べ、例えば株式の持ち合いや「少数株主」への配慮、買収防衛策導入の理由などについて、IRを通じて経営トップが説明する